

# 第3期びわ地区地域福祉活動計画

2024～2028

# 目 次

<b>1. 計画の概要</b>	p. 2
▶びわ地区地域福祉活動計画とは（計画の背景）	
▶計画の位置づけ	
<b>2. 計画策定に関わる情報</b>	p. 3
▶第2期計画期間をふり返って	
<b>3. 理念と基本目標</b>	p. 6
▶理念と基本目標	
▶基本目標1 参画と交流の「わ」	
▶基本目標2 居場所づくりの「わ」	
▶基本目標3 お互いさまで見守る「わ」	
▶基本目標4 地域のつながりと生活支援の「わ」	
▶基本目標5 災害支援の「わ」	
▶基本目標6 仕組みづくりの「わ」	
<b>4. 計画の推進方法</b>	p. 9
▶計画の推進方法	
▶計画の推進体制	
<b>5. 計画策定に関わる資料</b>	p. 10
▶計画推進に関わる作業概要（日程）	
▶計画推進委員会名簿	
▶アンケート調査結果	
▶ヒアリング調査結果	

## 1. 計画の概要

▶びわ地区地域福祉活動計画とは（計画の背景）

◆地域福祉は次の段階へ

びわ地区では、2015年に「第1期びわ地区地域福祉活動計画」を策定し、さらに2019年3月には「第2期びわ地区地域福祉活動計画」を策定し、「わ」になって活動するまちびわ（理念）を基本理念に様々な活動に取り組み、展開してきました。

しかしながら、この間にも、びわ地区においても高齢化率が徐々に増加し、ひとり暮らし高齢者や要介護認定者、しょうがい者など、支援を必要とする人が増加してきています。また、隣近所間のつながりの希薄化や地域活動の担い手の減少など、これまでの計画から継続して取り組む必要性のある課題があります。

また一方で、新型コロナウイルスの影響などから、生活に困窮している方、ひきこもりなど、地域の中で孤立してしまっている人の課題など、新たな課題も浮かび上がり、国を挙げた「地域共生社会」の推進を図っているところです。

このようなことから、地域福祉をさらに発展的に推進し、かつ新たな課題への対応を図っていくために「第3期びわ地区地域福祉活動計画（以下、「第3期計画」という。）」を策定します。

▶計画の位置づけ

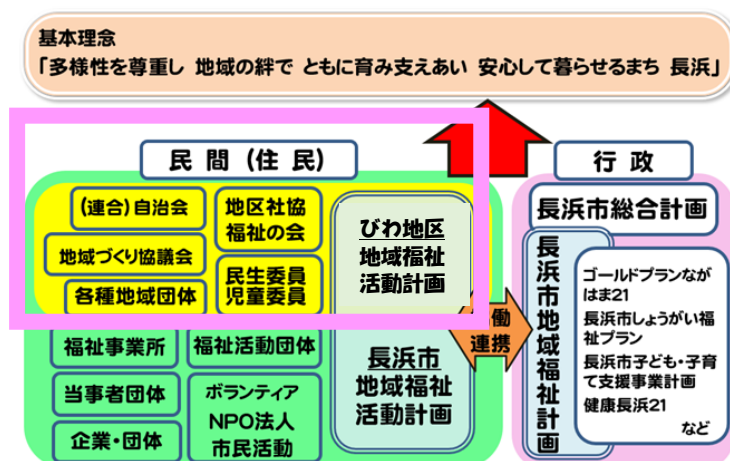
◆地区、市のエリアを活かした一体的な計画

びわ地区地域福祉活動計画は長浜市地域福祉活動計画と連動し「住民参加」による活動・実践と行政や関係機関・団体との「協働」を図りながら、福祉課題の解決を目指し、「住民主体による福祉のまちづくり」を進める計画です。

「長浜市地域福祉活動計画」と一体的に策定することで、市域、地区域のエリアによる活動メリットを最大限活かせる活動展開を計画します。

また、長浜市が策定する行政の地域福祉に対する施策計画である「長浜市地域福祉計画」と連携・協働し、公民協働による地域福祉を推進します。

### 計画の位置づけ



## 2. 計画策定に関わる情報

---

### ▶第2期計画期間をふり返って

#### 基本目標Ⅰ 地域づくりの環

- 気楽に寄れる“居場所”を広めよう
- 誰もが話しやすい地域にしよう

「こんなこと、他の人には頼めないな」「困っているけど、どこに相談すれば良いのかわからない」と、悩みや困りごとを外に出しにくい傾向があります。そのような状態を防ぐため、気軽にSOSを発信し、また発信されたSOSを住民みんなでキャッチし、「困った」と言える地域づくりを目指してきました。

#### ■推進する活動

- ・ 小地域サロン推進事業
- ・ 転倒予防教室等支援事業
- ・ 福祉委員会等活動支援事業
- ・ 介護者サロン事業
- ・ ひとり暮らし高齢者のつどい
- ・ 浅井びわ湖姫地域包括支援センターとの連携

#### 【成果】

- ・ お互いに支えあえる・つながりあえる地域・高齢者が元気に暮らせる地域づくりに小地域サロンや転倒予防教室の運営支援やボランティアスタッフや福祉委員を対象に、交流会を開催しサロン間の情報交換をおこないました。
- ・ コロナ禍により立ち止まっているサロンに、高齢者の孤立防止を目的に新たなサロンの方法の提案を交流会でおこないました。
- ・ ひとり暮らし高齢者の集い（喜楽会のつどい）つながりをつくることで、同じ立場で支えあい、励ましあえる関係づくりに取り組みました。

#### 【課題】

- ・ コロナ禍にともないサロンの開催を中止になり、参加者が減少するなど継続が難しく解散をするサロンもありました。
- ・ 福祉委員の活動も自治会に事業が中止になるなど活動の在り方の検討や今後も地域で支えあう活動が求められています。



## 基本目標Ⅱ 人づくりの和

- “おたがいさま”で見守り支えあう地域をつくろう
- 地域活動の“次世代の担い手”を育てよう

地域福祉研修会やサロンボランティア交流会の開催、各自治会で取り組まれている福祉委員会への支援等、若者から高齢者まで様々な年代が地域の福祉に関心を持てるような取組みが推進されてきました。

そのようななか、ひとり暮らし高齢者や子育て世代等、あたたかなまなざしで見守り支えあうことの重要性への気づきが生まれました。

若者や退職者世代の活動者を支援・育成し、多世代における地域福祉活動者を増やすことで、きめ細やかに支えあい、地域の福祉に関心を持てる人づくりを目指してきました。

### ■ 推進する活動

- ・ しょうがい者施設訪問
- ・ 友愛訪問
- ・ 福祉委員等支援事業
- ・ 次世代育成支援事業
- ・ ボランティア活動支援事業
- ・ ひとり暮らし高齢者のつどい
- ・ 小地域サロン推進事業
- ・ 家族ふれあい事業
- ・ 退職者世代の力を活かした活動

### 【成果】

- ・ 地域で退職世代の活躍する場づくりを目的に、特に男性の居場所がないことからびわ男倶楽部が立ち上がりました。地区内をウォーキングしながらゴミ拾いや、サロンなどのボランティア等に活躍されています。
- ・ ひとり暮らしの高齢者に民生委員より訪問活動が始まりました。集まるだけじゃない個別活動が広がっています。

### 【課題】

- ・ しょうがい者施設訪問では毎年びわ出身の方に民生委員・福祉の会から訪問しつながり続けていますが、一方で地域にともに暮らすしょうがいがある人もない人も交流や災害時・緊急時の支援体制が求められています。





### 3. 理念と基本目標

---

#### ▶理念と基本目標

##### ■理念

#### みんなで「わ」になってしあわせに暮らせるまち びわ

前述の「第2期計画期間をふり返って」にもあるとおり、第2期計画では地域づくり、人づくり、仕組みづくりの各視点から様々な活動が行われ、地域の活性化に一定の成果があったものの、残された課題、新たに取り組むべき課題も見えてきました。少子高齢化、人口減少が進むびわ地区では、コロナ禍も相まって活動の継続や活性化が難しくなり、担い手不足も深刻です。今後より一層、住民がつながり支えあって暮らしていくことが重要になってきました。そのためには、心身ともに健康であることを基礎として、しょうがいの有無や年齢性別に関わらず、全ての人が地域福祉活動に参加できることが求められます。この「健康」と「福祉」の観点を「しあわせ」という言葉に込め、第1期・第2期計画の理念「わになって活動するまちびわ」から更に発展させ、「みんなでわになってしあわせに暮らせるまちびわ」を第3期計画の理念とし、以下の目標を策定しました。

##### ■基本目標

##### ●基本目標Ⅰ 参画と交流の「わ」

「みんなでしあわせになるため」の基礎となる活動として、人と人とがつながることを目指します。

##### 【行動指針】

- ▶住民相互の交流を促進します。
- ▶地域の人との交流を増やすために、イベント等への参加を促します。
- ▶地域に住むすべての人が、性別や年齢に関係なく思いやりを持って接します。

##### 【活動例】

- ・文化祭やお楽しみ会等の交流活動
- ・青年層や子育て世代等、同世代が交流できる活動
- ・子どもと高齢者等、世代間の交流ができる活動
- ・地域住民と福祉施設との交流活動
- ・公園等の清掃活動



●基本目標Ⅱ 居場所づくりの「わ」

誰にでも居場所がある地域を目指します。

【行動指針】

- ▶お世話する人される人ではなく、みんなで居場所づくりに取り組みます。
- ▶あらゆる世代の人がいつまでも健康な暮らしを続けられるよう、趣味活動サークル、サロン、転倒予防教室などに参加します。

【活動例】

- ・サロン等の企画運営、活動支援
- ・趣味活動サークル等の活動支援
- ・一人暮らし高齢者の集いの場の企画運営
- ・子どもの居場所づくりへの取り組み
- ・健康講座や健康促進に関するイベントの企画運営、活動支援

●基本目標Ⅲ お互いさまで見守る「わ」

誰もが安心して暮らせるよう、お互いさまの見守り活動をすすめます。

【行動指針】

- ▶ 地域住民による見守り活動への積極的な参加をすすめます。

【活動例】

- ・高齢者友愛訪問
- ・交通安全と防犯を目的とした子どもの見守り活動
- ・「命のバトン」を活用した見守り活動（※基本目標Ⅴと連動）

●基本目標Ⅳ 地域のつながりと生活支援の「わ」

「みんなでしあわせになるため」に、様々なお困りごとの解決を目指します。

【行動指針】

- ▶困りごとを話し合える関係づくりをすすめます。
- ▶暮らしの課題に関心を持ち、その解決方法について検討し、活動します。

【活動例】

- ・相談窓口の周知、啓発活動
- ・専門職との連携（地域包括支援センター、健康推進課、しょうがい福祉課等）
- ・「暮らしの支えあい検討会」の開催（課題解決方法について検討、提案と実施）
- ・高齢者・しょうがい者宅への生活支援活動（雪かき、草刈り、買い物支援等）





●基本目標Ⅴ 災害支援の「わ」

びわ地区は河川の増水により、たびたび避難指示が出ます。すべての人が危機感を持ち、命を守るための備えができるようにします。

【行動指針】

▶いざという時に慌てないように、日頃からの防災意識を高め、災害時を想定した体制づくりをすすめます。

【活動例】

- ・避難訓練
- ・防災福祉マップの作成
- ・「命のバトン」の活用（※基本目標Ⅲと連動）
- ・見守り支えあい制度登録の推進
- ・災害マニュアルの整備
- ・防災研修の推進
- ・備蓄の整備

●基本目標Ⅵ 活動を支える仕組みづくりの「わ」

「みんなでしあわせになるため」に、様々な仕組みを整えます。

【行動指針】

▶地域の福祉活動を向上・促進するため、各組織の基盤強化をします。

▶地域に必要な資源を検討し、取り組みをすすめます。

【活動例】

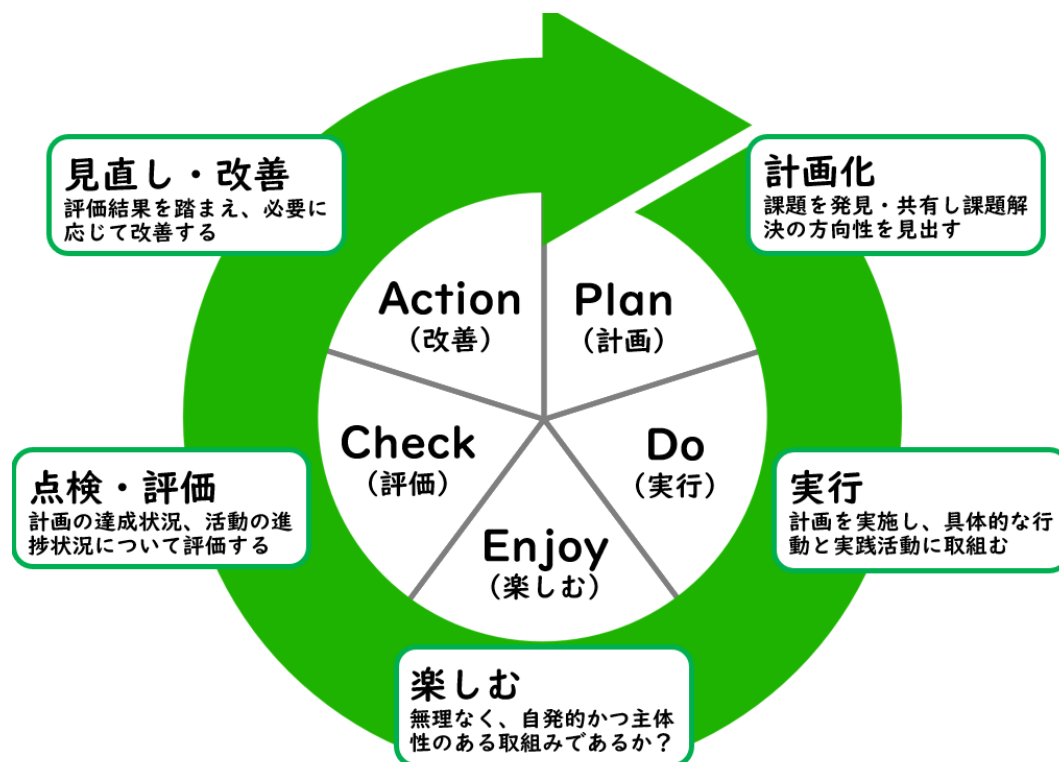
- ・各種研修会の運営、参加
- ・福祉委員会活動への支援
- ・多団体による協働（類似事業の統合、ネットワークづくり、担い手の負担を減らす取り組み等）



## 4. 計画の推進方法

### ▶計画の推進方法

従来は、計画の実効性を高め、円滑で確実な推進を図るため、計画の進捗状況や達成度を定期的に評価し、必要に応じて適宜見直し等をおこない、常により良い活動や取り組みを推進するPDCAサイクルに沿って進捗管理をしていました。そこへ、無理なく自発的かつ主体性ある取り組みであるかという「Enjoy」の視点を追加した、PD ECAサイクルに沿って、計画の目標達成に向けた進捗管理に努めます。



### ▶計画の推進体制

策定委員会参画組織を中心とし、びわ地区の各種団体にて協働して取り組みます。年2回程度、計画の進捗状況について情報共有できる会議を開催します。

## 5. 計画策定に関わる情報

### ▶計画推進に関わる作業概要（日程）

日時	会議体	内容
2月22日	役員会	概要説明
4月25日	コア会議	概要説明、策定方法の検討
5月12日	策定委員会	概要説明、コア会議内容報告、承認
5月17日		アンケート依頼（民生委員）
5月19日	総会	概要説明
5月19日		アンケート依頼（自治会長、福祉委員）
6月16日		アンケート回収、集計（自治会長、福祉委員）
6月21日		アンケート回収（民生委員）
7月4日	コア会議	アンケート結果を基に意見交換
7月15日		ヒアリング（PTA役員）
7月28日		ヒアリング（びわ出身・在住者福祉関係者）
7月28日		ヒアリング（市外からびわへの婚姻転入者）
7月28日		ヒアリング（びわ地元育ち・在住の若者世代）
8月4日		ヒアリング（サロン運営者・ボランティアスタッフ）
9月22日	（福祉の会三役会）	コア会議打合せ
9月25日		ヒアリング（地域ボランティア活動者）
10月3日	コア会議	各団体の事業や活動を市社協計画の柱ごとに整理 ヒアリングやアンケートの内容を基に課題を整理
10月30日	（福祉の会三役会）	コア会議打合せ
11月7日	コア会議	素案作成
11月17日	策定委員会	素案修正
12月15日	策定委員会	案承認→本誌完成 ダイジェスト版案検討
1月17日	（福祉の会三役会）	ダイジェスト版修正
2月26日	（福祉の会三役会）	ダイジェスト版修正
3月13日	（福祉の会三役会）	ダイジェスト版完成
4月以降		全戸配布
5月以降	総会	概要説明

▶計画推進委員会名簿

第三期びわ地区住民福祉活動計画策定体制

■コアチーム

第三期びわ地区住民福祉活動計画策定についての進め方を検討・協議を行います。

1	びわ福祉の会会長	中川 泰彦
2	びわ福祉の会副会長	江畑 平夫
3	びわ福祉の会副会長	川崎 正代
4	びわ地域づくり協議会会長	伊藤 雅明
5	びわ地区連合自治会会長	弓削 圭司
6	びわ地区民生委員児童委員協議会会長	藤森 忠夫
7	びわ老人クラブ連合会会長	寺田 恵藏
8	赤十字奉仕団委員長	勝木 育子
9	手をつなぐ育成会びわ地区長	吉田 恵子
10	まちづくりセンター所長	前川 重樹
11	びわボランティア連絡協議会会長	橋本 洋子

## ■策定委員会

コアチーム会議の提案事項について審査・決定を行います。

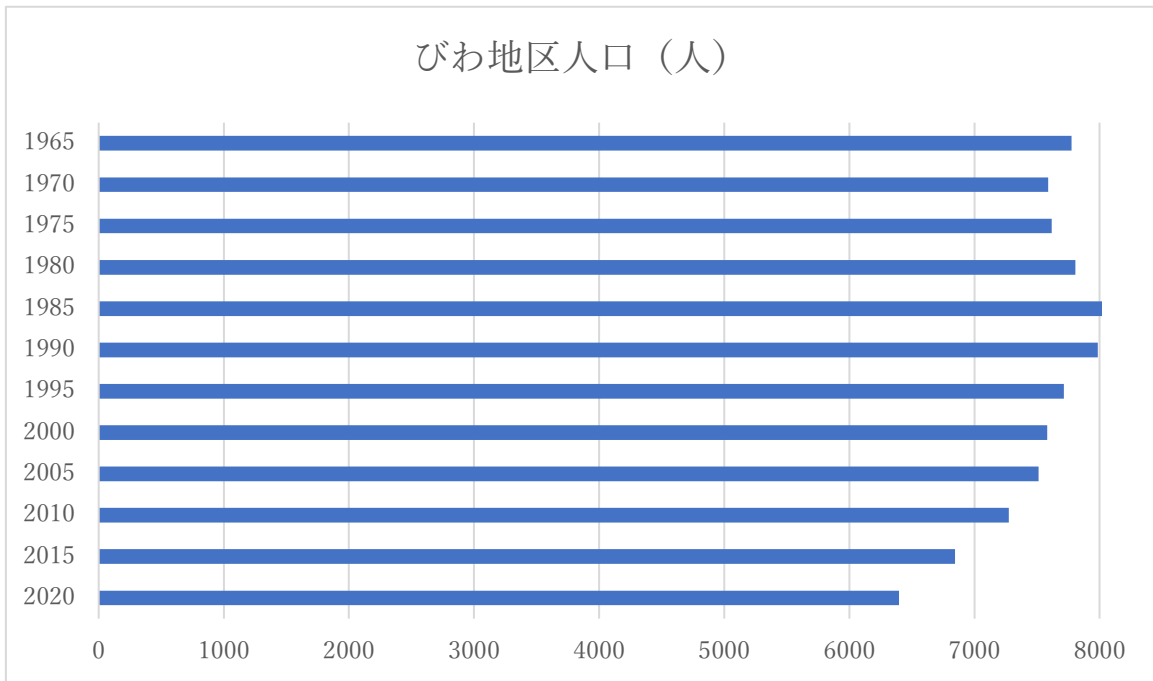
1	びわ福祉の会会長	中川 泰彦
2	びわ福祉の会副会長	江畑 平夫
3	びわ福祉の会副会長	川崎 正代
4	びわ地域づくり協議会会長	伊藤 雅明
5	びわ地区連合自治会会長	弓削 圭司
6	民生委員児童委員協議会会長	藤森 忠夫
7	民生委員児童委員協議会	竹中 和代
8	民生委員児童委員協議会	松井 智津子
9	民生委員児童委員協議会	川瀬 晃
10	びわ老人クラブ連合会会長	寺田 惠藏
11	赤十字奉仕団委員長	勝木 育子
12	手をつなぐ育成会びわ地区長	吉田 恵子
13	びわ中学校PTA会長	塚田 正喜
14	まちづくりセンター所長	前川 重樹
15	びわボランティア連絡協議会会長	橋本 洋子
16	有識者	藤田 正男
17	有識者	中川 武治
18	有識者	松井 弘子
19	有識者	藤井 勝之 (～R5. 5. 19)
20	有識者	前川 豊司 (～R5. 5. 19)
21	有識者	八若 暁 (R5. 5. 19～)
22	有識者	西山 富代 (R5. 5. 19～)

▶びわ地区福祉データ（2023年4月1日現在）

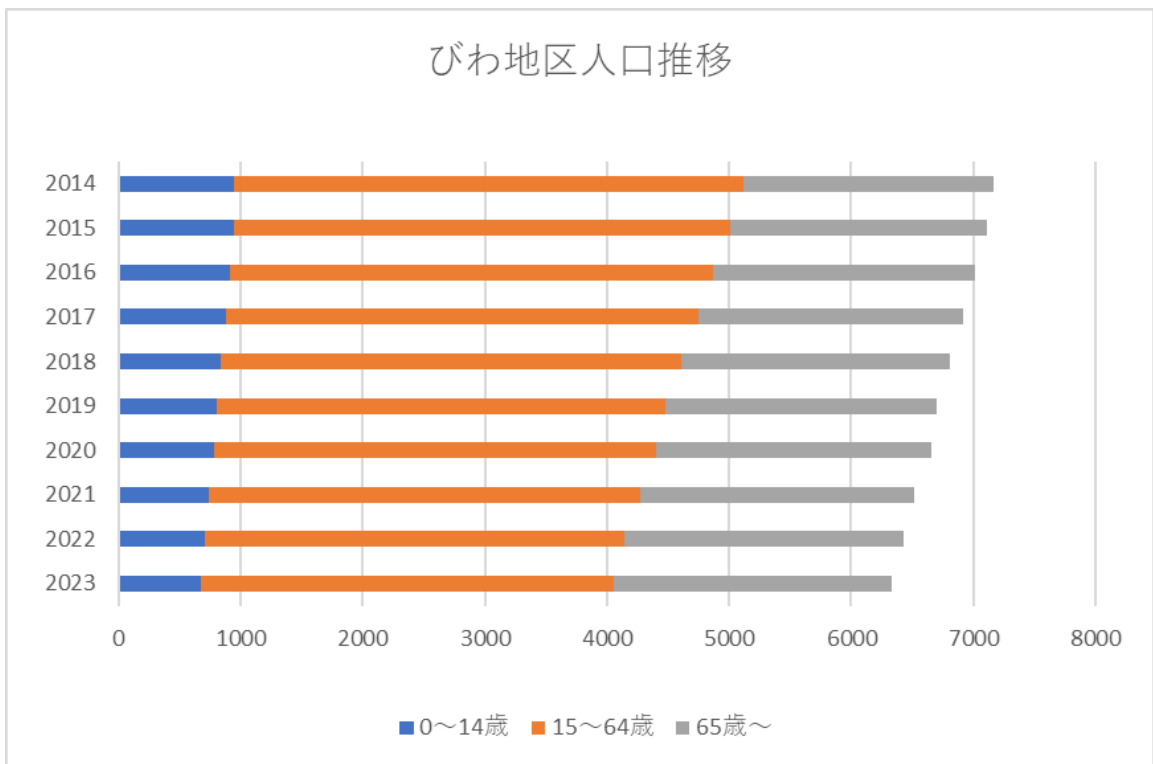
- 人口 6,329人
  - ・0～14才 674人
  - ・15～64才 3,376人
  - ・65才以上 2,279人
- 高齢化率 36.01%
- 介護認定率 19.4%
- 特定健診の受診率 R3:38.7%（市：37.1%）
- 出生数 R4：25人
- 自治会数 28
- 老人クラブ連合会加入自治会数 7
- 高齢者のみ世帯数 787（単身世帯数 390、2人以上世帯数 397）
- 個別計画（長浜市避難支援・見守り支えあい計画） 作成済み：156人  
個別避難計画 作成済み：27人（5地区）
- サロン数 18
- 転倒予防教室数 10
- 命のバトン取り組み自治会数 16  
命のバトン活用本数 128
- 民生委員数 18
- 福祉委員数 59
- 健康推進員数 10
- びわ地区の面積 16.98 k m<sup>2</sup>

▶園児・生徒数（2023年5月1日現在）

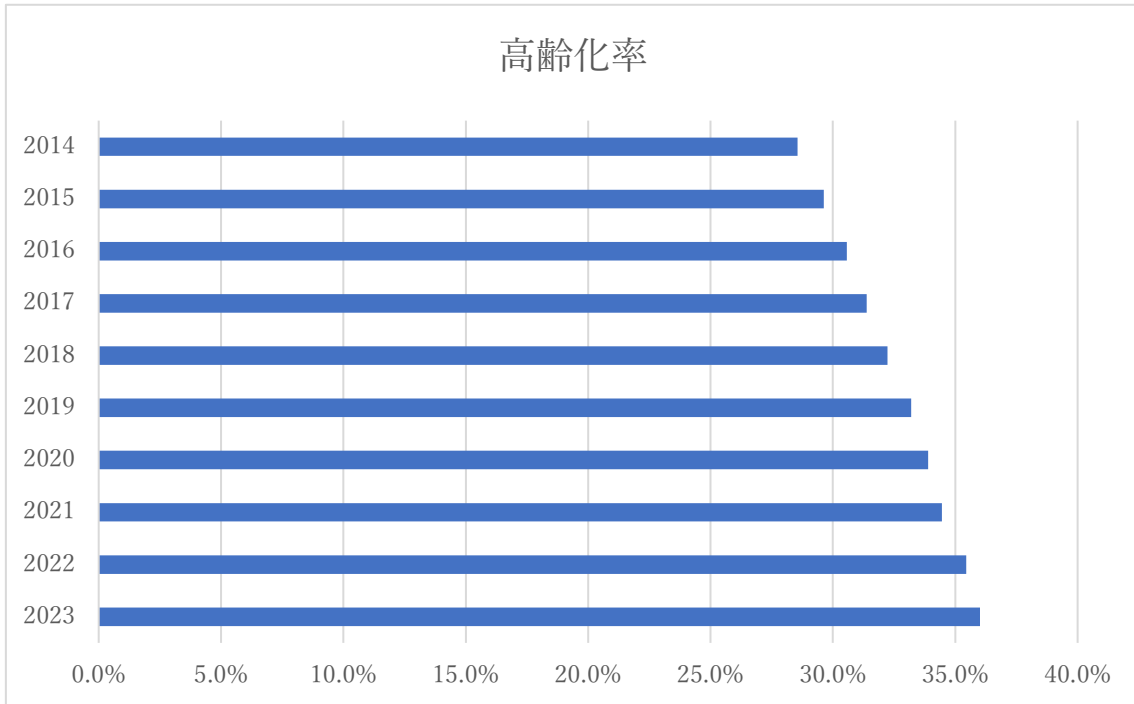
- びわ北小学校生徒数：112 学童登録者数：60
- びわ南小学校生徒数：176 学童登録者数：56
- びわ中学校生徒数：166
- こども園短時部園児数：36、長時部園児数：162



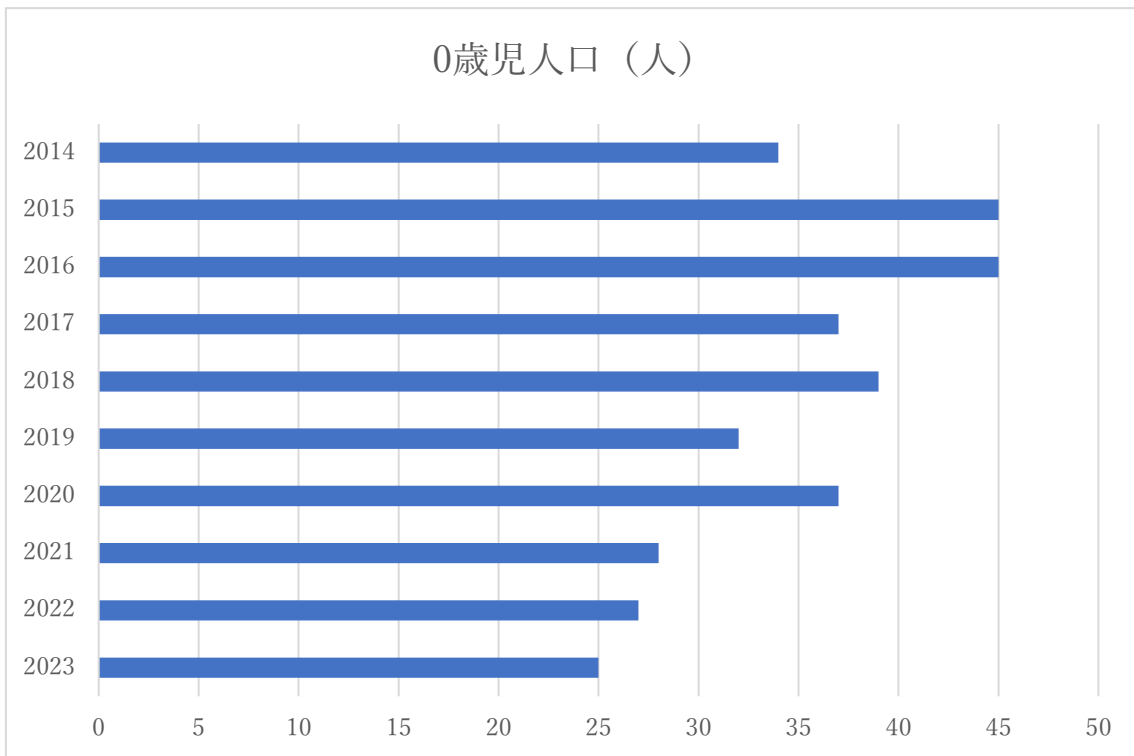
国勢調査より



住民基本台帳より



住民基本台帳より

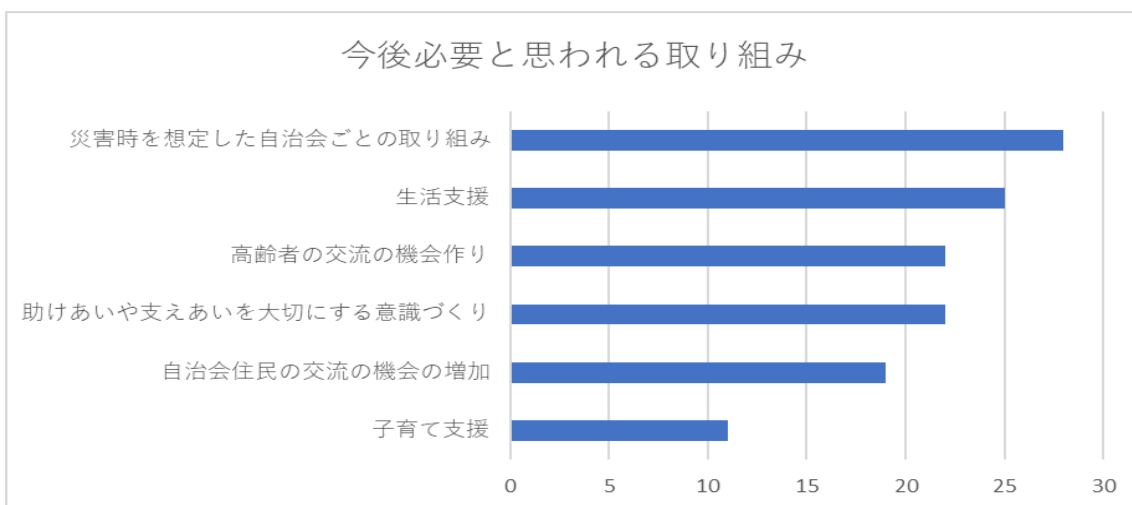
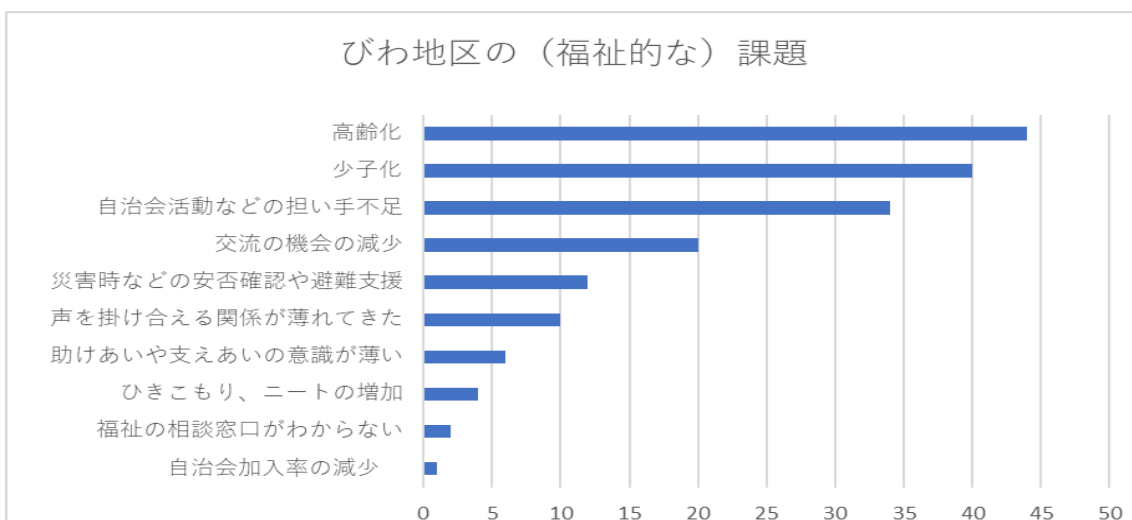
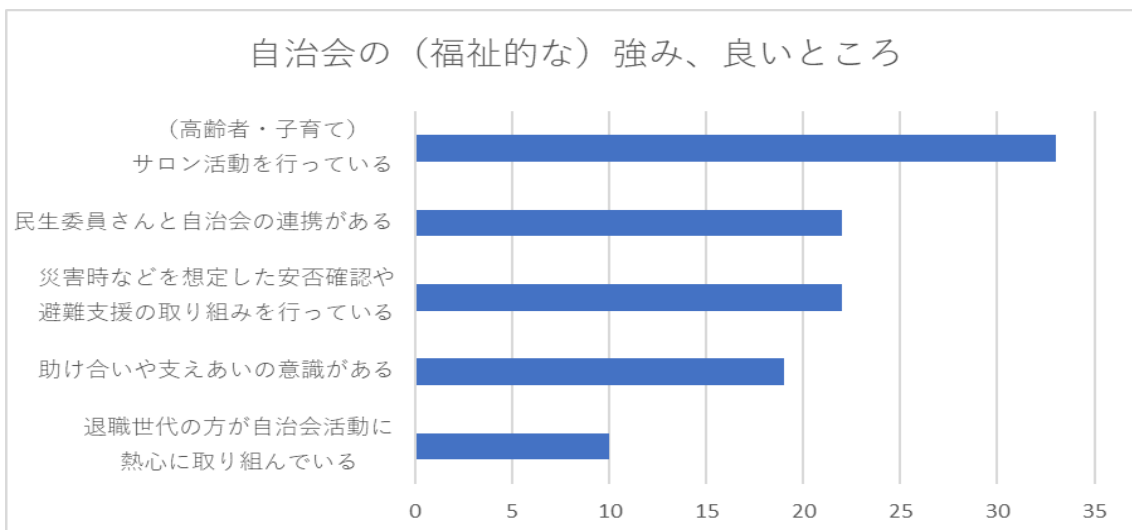


住民基本台帳より



▶アンケート調査結果より

■実施時期 令和5年5月～6月



## 「びわ地区地域福祉活動計画」策定に関わる福祉活動アンケート

### 調査結果

アンケート回答数

回答者	自治会		民生委員		福祉委員	
	3期	2期	3期	2期	3期	2期
依頼数	28	28	18	18	28	12
回答数	20	24	18	17	11	7
回答率	71%	86%	100%	94%	39%	58%

①自治会内の交流（つながり）はどのような活動がありますか？（複数回答可）

交流活動内容		活動自治会数	
		3期	2期
子育てサロン		1	3
子ども会活動		18	17
老人会活動		12	15
高齢者サロン		14	16
サロン 実施主体	自治会	7	5
	老人会	2	3
	福祉委員会	3	—
	民生委員	0	—
	独立活動	4	6
年中行事		10	13
運動会		1	7
文化祭		5	7

その他

グランドゴルフ、草刈り、川掃除等の総普請（作業）、ウォーキング教室、ボウリング、まちづくり委員会企画のふれあい活動、各社司毎の夏会、ホテル観賞会、ウォークラリー、人権研修、防災訓練、灯明祭、地藏盆、生物観察会、おこない、春と秋の総人足、秋のつどい

②自治会の（福祉的な）強み、良いところはどのようなところだと思われますか？  
（複数回答可）

項 目	自治会		民生委員		福祉委員		合計	
	3期	2期	3期	2期	3期	2期	3期	2期
退職世代の方が自治会活動に熱心に取り組んでいる	3	4	5	2	2	1	10	7
民生委員さんと自治会の連携がある	9	5	8	11	5	2	22	18
（高齢者・子育て）サロン活動を行っている	12	12	14	10	7	4	33	26
災害時などを想定した安否確認や避難支援の取り組みを行っている	9	8	9	6	4	3	22	17
助け合いや支えあいの意識がある	11	12	13	10	6	5	19	27

その他

- ・防災講座に学ぶ。

③びわ地区の（福祉的な）課題はどのようなことですか？（複数回答可）

項 目	自治会		民生委員		福祉委員		合計	
	3期	2期	3期	2期	3期	2期	3期	2期
少子化	16	19	16	16	8	6	40	41
高齢化	19	20	17	14	8	7	44	41
自治会活動などの担い手不足	19	9	10	8	5	3	34	20
自治会加入率の減少	0	0	1	0	0	0	1	0
声を掛け合える関係が薄れてきた	3	3	5	9	2	0	10	12
交流の機会の減少	5	5	11	7	4	2	20	14
災害時などの安否確認や避難支援	5	6	5	7	2	2	12	15
ひきこもり、ニートの増加	1	0	2	5	1	0	4	5
福祉の相談窓口がわからない	0	19	1	16	1	6	2	41
助けあいや支えあいの意識が薄い	1		4		1		6	

その他

- ・若者が成人すると都市部に移転してしまう。空き家の増加。
- ・交流の場への参加が少ない。
- ・如何にしてコロナ発生前の、状況に戻せるかが課題である。
- ・外国人の方が何家族かおられるので自治会の連絡等意疎通がしにくい。

④今後（５年後くらい）自治会にはどのような取り組みが必要だと思われますか？  
（複数回答可）

項 目	自治会		民生委員		福祉委員		合計	
	3期	2期	3期	2期	3期	2期	3期	2期
子育て支援	2	5	6	5	3	2	11	12
高齢者の交流の機会作り	5	7	12	5	5	3	22	12
生活支援	10	—	10	—	5	—	25	—
自治会住民の交流の機会の増加	4	7	10	9	5	3	19	19
災害時を想定した自治会ごとの取り組み	10	15	12	14	6	3	28	32
助けあいや支えあいを大切にする意識づくり	7	11	10	15	5	3	22	29

その他

- ・公民館の土日の開設（交流を持たせる）週一程度。
- ・リーダーの養成、育成が必要。
- ・子どもたちの異年齢での交流の場を作る。
- ・サロン活動に参加する方は限定される。全員が参加できる活動があればよい。

⑤貴自治会内の日ごろからの見守り活動（サロン活動など）を開始・充実させるために  
なにが必要だと思いますか？（複数回答可）

【見守り活動】

項 目	自治会		民生委員		福祉委員		合計	
	3期	2期	3期	2期	3期	2期	3期	2期
財源的支援	14	15	5	10	5	5	24	30
物的支援（命のバトン）	3	4	4	6	4	1	11	11
相談立ち上げ支援	5	8	5	3	1	1	11	12
地域の状況説明（参考事例など）	6	7	6	4	1	1	13	12
避難支援・見守り支えあい制度の登録	3	7	7	6	3	2	13	15

その他

- ・活動内容の情報共有。
- ・近所の助け合い制度（よい意味での５人組制度）。
- ・リーダーの育成、リーダーのなり手がなく。誰もが楽しみ集える醸成作り。
- ・老人のみの家庭への訪問など目の届かないのが心配である。

【サロン活動など居場所づくり活動】

項 目	自治会		民生委員		福祉委員		合計	
	3期	2期	3期	2期	3期	2期	3期	2期
財源的支援	14	18	6	12	7	4	27	34
物的支援（命のバトン）	4	6	5	4	0	3	9	13
相談立ち上げ支援	5	9	5	3	0	2	10	14
地域の状況説明（参考事例など）	4	5	6	3	0	1	10	9

その他

- ・活動内容の情報共有。
- ・交流道具（モルックなどの）を支援、又は配布。
- ・ボランティアスタッフの活動への支援。
- ・足の不自由な方、乗り物にも乗れない方をどうするのか。
- ・サロンに来ていただく勧誘の仕方はどうすればいいのか？誘っても来ていただけないので困っています。

⑥びわ福祉の会に求めることはどのような活動ですか？（複数回答可）

項 目	自治会		民生委員		福祉委員		合計	
	3期	2期	3期	2期	3期	2期	3期	2期
びわ地区域のつながりづくり （ひとり暮らし高齢者のつどい、 家族ふれあい事業 等）	9	11	15	9	5	6	29	26
びわ地区域の当事者支援 （介護者サロンの実施 等）	5	5	9	7	4	3	18	15
びわ地区域の意識向上 （広報誌の発行、各種研修会の開催 等）	5	7	12	8	3	2	20	17
自治会のふれあいと交流の支援 （小地域サロン推進事業 等）	7	5	8	4	3	3	18	12
自治会の福祉の仕組みづくり （福祉委員会等活動支援事業、 転倒予防教室支援事業 等）	6	5	8	10	3	4	17	19
子育て支援活動	3	7	5	4	4	4	12	15
退職世代の方の自主活動支援	4	7	7	5	2	3	13	15

その他

- ・自治会の負担軽減。

⑦日ごろの自治会活動の中で、課題や感じておられることがあれば、どのようなことでも結構ですので教えてください

#### 【自治会長】

- 昼間若年層が誰もいません。昔は 65～75 歳の方が退職して家におられたのですが、再雇用などで 70 代の方もいません。子どもの数も少なくなり、中学生以上は学習塾などで忙しく、集落にいるのは 80 代くらいの方ばかり…。見守りするにも、高齢者どうしが互いに見守る関係が主になると思われます。
- 高齢化、自治会活動の担い手不足等。
- 各種団体（子ども会、老人会等）の会員減少により活動が低調になり、従来行なっておられた活動ができなくなり、自治会事務局の負担が増している。
- 少子化、高齢化で自治会の活動（草刈り等）出席率の低下、今後の維持管理・自治会役員のなり手不足。
- 自治会活動の担い手不足が深刻です。今後どのように活動していけばよいか不安を感じます。
- 高齢者の見守り、訪問活動、ヤクルト、牛乳の配達して、ふれあいの場を作る。
- 現在、特定の方々が中心となって活動いただいているが、自治会内で、それに続く新規参加者がいない。
- 自治会役員によって、連携や参加、補助申請など行っているが、本来の自治会業務が多用のため、分離した組織で（びわ福祉の会などでお願いしたい）一括して担っていただきたい。（可能な範囲で。）
- 高齢者のつながり、支え合いの大切さはもちろんのこと、次代を担う世代の育成、支援が大切になってくると感じています。特に子育て（乳幼児）の親や子どもの集える場ができればよいと感じています。身近な所での育児支援や場の提供ができないかと思っています。
- サロン活動子ども向けの活動など自治会の行事には女性の参加の割合の方が高いのですが、自治会の仕組みとして役員はすべて男性が選出され男性中心の自治会運営になっています。自治会活動の中で女性が活躍しやすいしくみをどのように作っていくのかが大きな課題です。

## 【民生委員】

- 活動をしていくこと（自主・文化活動）場の提供、図書館のように開放日を多くして人々の交流の場を多くすること。
- 元気な一人暮らしの方が突然倒れて死亡されるということが発生しました。緊急情報（通報）システムは一定の状況がないと設置できません。元気な一人暮らしでも安心して暮らせるよう設置希望者へのシステム補助ができるように考えてほしい。
- 高齢者等で本当に困っておられる方（福祉関連）との交流、掘りおこしができない、ジレンマにおちいつています。
- 高齢者世帯の増加、個人情報と実情把握。
- 高齢者等とのふれあいの場が少ない、自治会との連携が悪い、ふれあいサロン等への財源的支援が少ない。
- 子供会活動や高齢者サロンはあっても子供や子育て中の親さんと高齢者との横のつながりはむつかしいように思います。横のつながりがもう少しもてるといいなと思います。親戚や隣人とうまくお付き合いできない人もおられ、お元気にされている時はいいのですが、これから高齢になられますし、見守りなど民生委員だけではとても大変と思うこともあり、親戚、近所のつながりの大切さを感じているこの頃です。
- どの地区もそうだと思いますが、少子高齢化の加速に加えて若者の流出が多く、今後一層独居老人の数が増えると思われます。さらに民生委員のなり手がなかなか見つからないのも実状です。これからは民生委員だけではどうにもならない事項が増えてくると考えられます。びわ福祉の会を中心に行政や自治会を含めた組織的な取り組みが必要だと思います。
- 1. 災害時要配慮者登録をされている方への災害時の支援が本当にスムーズにできるのか、マニュアル訓練等必要かと思うが、自会内でも議論されていない様子。  
2. 自治会内で福祉委員会は存在するが役員の中にも福祉に対する意欲、やる気が希薄であると思われる。これは老人に対して老人会等一部の人にまかせて置けばいいという昔ながらの風潮があるように思う。福祉に対する勉強会が必要か？
- 高齢者の外出の機会をもっと増やせないか。月1回のサロンだけでは少なすぎる。自治会老人会の役員、サロンボランティアの負担を増やさず回数を増やす方策はないか。学童にあずけることはしかたないことだが、昔のように放課後子どもたちが地域で遊ぶことはできないのか。
- びわ地区だけの問題ではないのですが、済んでいる地域、自治会ごとに民生委員児童委員が必要だと思います。人数だけでなく、まとまる地域での活動が意欲に継続をもたらせる。曾根町の場合はぜひ御館の自治会にひとり民生委員が配置していただければと強く感じているところです。

- 地域の中で子育てされているご家庭への支援や見守りがみえにくい状況に感じています。また、小学生中学生高校生でのひきこもりなどが見えにくく思っています。
- スクールガードを通しみずべの里のご兄妹が登校中にけんかをされ、他のお子さんへの迷惑になっています。学校へもお話ししています。今年三人目の赤ちゃんが生まれられてからです。もう暫く様子を見させて頂きご家族と話したいと思えます。
- 発達障害、それに似た症状を呈する割合が増えている（似た症状を呈する子が増えている）ように感じるが・・・このような場合当事者が感じる生きづらさを少しでも減らすために関わる者（だけではないが・・・）の意識の向上、支援のあり方について考えていきたいと日頃思っている。
- 外で集団で遊ぶ子がいなくなっており、自分達で工夫して（遊びのルール等）運動（体を動かす）する体験が不足している。スポ小等で体を動かす子は多くいるが、大人が与えた文化としてのルール（体の動かし方等）を学ぶのであって、創造性や柔軟性からすると・・・いずれにしても、運動をする子、しない子で分かれてしまっているのではと思う。運動だけにとどまらず、何かの機会を与えられる子とそうでない子というような分断が（親の意識や経済力の違いで）顕著にならないことを願っています。

#### 【福祉委員】

- 高齢化：介護保険制度によるデイサービス等の充実。少子化：子育て支援制度による学童保育等の充実と福祉環境は整ってきていると言われます。しかしそれと共に高齢者や子どもの姿が地域から消えるというか見られなくなっています。生活弱者という点でいうと、障害をもっている人、ひきこもりがちな人などもそうです。「うちの自治会に困っている人（支援を受ける人）はいない」と力説する方もおられます。地域の暮らしの課題に向き合わない事が課題です。
- コロナ明けでも元の生活へはもどらない部分が多い。現役世代と退職された家庭（子どもが独り立ちして）とのつながり、自治会レベルよりもとなり組などのつながりも薄くなっている。そのあたりが改善できれば。



### 「第3期びわ地区住民福祉活動計画」策定に関わる福祉活動アンケート調査

自治会長氏名： \_\_\_\_\_

自治会名： \_\_\_\_\_

ご存知の範囲でご回答ください。(☑をつけてください。)

#### ①貴自治会内の交流(つながり)はどのような活動がありますか？(複数回答可)

子ども向け 【 子育てサロン 子ども会活動 】

( 具体的な活動内容および、活動の中で気づいた困りごと・心配ごと等 )

高齢者向け 【 老人会活動 高齢者サロン 】

⇒ 高齢者サロン活動がある自治会にお伺いいたします

( サロンの運営主体を教えてください )

自治会として実施 老人会が実施 独立活動として実施

その他 ( )

全自治会員向け【 年中行事(夏祭り 等) 運動会 文化祭 】

その他 ( )

#### ②貴自治会の(福祉的な)強み、良いところはどのようなところだと思われませんか？

(複数回答可)

退職世代の方が自治会活動に熱心に取り組んでいる

民生委員さんと自治会の連携がある

(高齢者・子育て) サロン活動を行っている

災害時などを想定した安否確認や避難支援の取り組みを行っている

助けあいや支えあいの意識がある

その他 ( )

#### ③びわ地区の(福祉的な)課題はどのようなことですか？(複数回答可)

少子化 高齢化 自治会活動などの担い手不足

自治会加入率の減少 声を掛け合える関係が薄れてきた

交流の機会の減少 災害時などの安否確認や避難支援

ひきこもり、ニートの増加 福祉の相談窓口がわからない

助けあいや支えあいの意識が薄い

その他 ( )

裏面へ続きます

④今後（５年後くらい）貴自治会にはどのような取り組みが必要だと思われますか？

（複数回答可）

- 子育て支援（例：子育てサロン 等）
- 高齢者の交流の機会づくり（例：高齢者サロン 等）
- 生活支援（例：買物支援 等）
- 自治会住民の交流の機会の増加
- 災害時を想定した自治会ごとの取り組み  
（避難支援・見守り支えあい制度の登録、防災福祉マップ、命のバトン 等）
- 助けあいや支えあいを大切にする意識づくり
- その他（ ）

⑤貴自治会内の日ごろからの見守り活動（サロン活動など）を開始・充実させるために  
なにが必要だと思いますか？（複数回答可）

【見守り活動】

- 財源的支援            物的支援（命のバトン）
- 相談立ち上げ支援   地域の状況説明（参考事例など）
- 避難支援・見守り支えあい制度の登録
- その他（ ）

【サロン活動など居場所づくり活動】

- 財源的支援            物的支援
- 相談立ち上げ支援   地域の状況説明（参考事例など）
- その他（ ）

⑥びわ福祉の会に求めることはどのような活動ですか？（複数回答可）

- びわ地区域のつながりづくり（ひとり暮らし高齢者のつどい、家族ふれあい事業 等）
- びわ地区域の当事者支援（介護者サロンの実施 等）
- びわ地区域の意識向上  
（広報誌の発行、各種研修会の開催、自治会を対象とした出前講座 等）
- 自治会のふれあいと交流の支援（小地域サロン推進事業 等）
- 自治会の福祉の仕組みづくり（福祉委員会等活動支援事業、転倒予防教室支援事業 等）
- 子育て支援活動
- 退職世代の方の自主活動支援
- その他（ ）

⑦日ごろの自治会活動の中で、課題や感じておられることがあれば、どのようなことでも  
結構ですので教えてください

[ ]

「びわ地区地域福祉活動計画」策定に関わる福祉活動アンケート調査

主任児童委員氏名： \_\_\_\_\_

担当自治会名： \_\_\_\_\_

ご自身が見聞きされている範囲でご回答ください。

(□に☑をつけてください。)

①びわ地区の(福祉的な)強み、良いところはどのようなところだと思われますか？

(複数回答可)

- 退職世代の方が自治会活動に熱心に取り組んでいる
- 民生委員さんと自治会の連携がある
- (高齢者・子育て) サロン活動を行っている
- 災害時などを想定した安否確認や避難支援の取り組みを行っている
- 助けあいや支えあいの意識がある
- その他 ( \_\_\_\_\_ )

②びわ地区の(福祉的な)課題はどのようなことですか？(複数回答可)

- 少子化    高齢化    自治会活動などの担い手不足
- 自治会加入率の減少    声を掛け合える関係が薄れてきた
- 交流の機会の減少    災害時などの安否確認や避難支援
- ひきこもり、ニートの増加
- 助けあいや支えあいの意識が薄い
- その他 ( \_\_\_\_\_ )

③今後(5年後くらい) びわ地区にはどのような取り組みが必要だと思われますか？

(複数回答可)

- 子育て支援(例：子育てサロン 等)
- 高齢者の交流の機会作り(例：高齢者サロン 等)
- 自治会住民の交流の機会の増加
- 災害時を想定した自治会ごとの取り組み
- 助けあいや支えあいを大切にする意識づくり
- その他 ( \_\_\_\_\_ )

裏面へ続きます

④びわ福祉の会に求めることはどのような活動ですか？（複数回答可）

びわ地区域のつながりづくり（ひとり暮らし高齢者のつどい、家族ふれあい事業 等）

びわ地区域の当事者支援（介護者サロンの実施 等）

びわ地区域の意識向上

（広報誌の発行、各種研修会の開催、自治会を対象とした出前講座 等）

自治会のふれあいと交流の支援（小地域サロン推進事業 等）

自治会の福祉の仕組みづくり（福祉委員会等活動支援事業、転倒予防教室支援事業 等）

子育て支援活動

退職世代の方の自主活動支援

その他（）

⑤日ごろの民生委員活動の中で、課題や感じておられることがあれば、どのようなことでも結構ですので教えてください

### 「第3期びわ地区住民福祉活動計画」策定に関わる福祉活動アンケート調査

民生委員氏名： \_\_\_\_\_

担当自治会名： \_\_\_\_\_

ご存知の範囲でご回答ください。(☑をつけてください。)

#### ①担当自治会の交流(つながり)はどのような活動がありますか？(複数回答可)

子ども向け 【 子育てサロン 子ども会活動 】

( 具体的な活動内容および、活動の中で気づいた困りごと・心配ごと等 )

高齢者向け 【 老人会活動 高齢者サロン 】

⇒ 高齢者サロン活動がある自治会にお伺いいたします

( サロンの運営主体を教えてください )

自治会として実施 老人会が実施 独立活動として実施

その他 ( )

全自治会員向け【 年中行事(夏祭り 等) 運動会 文化祭 】

その他 ( )

#### ②担当自治会の(福祉的な)強み、良いところはどのようなところだと思われませんか？

(複数回答可)

退職世代の方が自治会活動に熱心に取り組んでいる

民生委員さんと自治会の連携がある

(高齢者・子育て) サロン活動を行っている

災害時などを想定した安否確認や避難支援の取り組みを行っている

助けあいや支えあいの意識がある

その他 ( )

#### ③びわ地区の(福祉的な)課題はどのようなことですか？(複数回答可)

少子化 高齢化 自治会活動などの担い手不足

自治会加入率の減少 声を掛け合える関係が薄れてきた

交流の機会の減少 災害時などの安否確認や避難支援

ひきこもり、ニートの増加 福祉の相談窓口がわからない

助けあいや支えあいの意識が薄い

その他 ( )

裏面へ続きます

④今後（5年後くらい）担当自治会にはどのような取り組みが必要だと思われますか？

（複数回答可）

- 子育て支援（例：子育てサロン 等）
- 高齢者の交流の機会づくり（例：高齢者サロン 等）
- 生活支援（例：買物支援 等）
- 自治会住民の交流の機会の増加
- 災害時を想定した自治会ごとの取り組み  
（避難支援・見守り支えあい制度の登録、防災福祉マップ、命のバトン 等）
- 助けあいや支えあいを大切にする意識づくり
- その他（ ）

⑤担当自治会内の日ごろからの見守り活動（サロン活動など）を開始・充実させるために  
なにが必要だと思いますか？（複数回答可）

【見守り活動】

- 財源的支援            物的支援（命のバトン）
- 相談立ち上げ支援   地域の状況説明（参考事例など）
- 避難支援・見守り支えあい制度の登録
- その他（ ）

【サロン活動など居場所づくり活動】

- 財源的支援            物的支援
- 相談立ち上げ支援   地域の状況説明（参考事例など）
- その他（ ）

⑥びわ福祉の会に求めることはどのような活動ですか？（複数回答可）

- びわ地区域のつながりづくり（ひとり暮らし高齢者のつどい、家族ふれあい事業 等）
- びわ地区域の当事者支援（介護者サロンの実施 等）
- びわ地区域の意識向上  
（広報誌の発行、各種研修会の開催、自治会を対象とした出前講座 等）
- 自治会のふれあいと交流の支援（小地域サロン推進事業 等）
- 自治会の福祉の仕組みづくり（福祉委員会等活動支援事業、転倒予防教室支援事業 等）
- 子育て支援活動
- 退職世代の方の自主活動支援
- その他（ ）

⑦日ごろの民生委員活動の中で、課題や感じておられることがあれば、どのようなことでも結構ですので教えてください

[ ]

### 「第3期びわ地区住民福祉活動計画」策定に関わる福祉活動アンケート調査

福祉委員氏名： \_\_\_\_\_

自治会名： \_\_\_\_\_

ご存知の範囲でご回答ください。(☑をつけてください。)

#### ①貴自治会内の交流(つながり)はどのような活動がありますか？(複数回答可)

子ども向け 【 子育てサロン 子ども会活動 】

( 具体的な活動内容および、活動の中で気づいた困りごと・心配ごと等 )

高齢者向け 【 老人会活動 高齢者サロン 】

⇒ 高齢者サロン活動がある自治会にお伺いいたします

( サロンの運営主体を教えてください )

自治会として実施 老人会が実施 独立活動として実施

その他 ( )

全自治会員向け【 年中行事(夏祭り 等) 運動会 文化祭 】

その他 ( )

#### ②貴自治会の(福祉的な)強み、良いところはどのようなところだと思われませんか？

(複数回答可)

退職世代の方が自治会活動に熱心に取り組んでいる

民生委員さんと自治会の連携がある

(高齢者・子育て) サロン活動を行っている

災害時などを想定した安否確認や避難支援の取り組みを行っている

助けあいや支えあいの意識がある

その他 ( )

#### ③びわ地区の(福祉的な)課題はどのようなことですか？(複数回答可)

少子化 高齢化 自治会活動などの担い手不足

自治会加入率の減少 声を掛け合える関係が薄れてきた

交流の機会の減少 災害時などの安否確認や避難支援

ひきこもり、ニートの増加 福祉の相談窓口がわからない

助けあいや支えあいの意識が薄い

その他 ( )

裏面へ続きます

④今後（５年後くらい）貴自治会にはどのような取り組みが必要だと思われますか？

（複数回答可）

- 子育て支援（例：子育てサロン 等）
- 高齢者の交流の機会づくり（例：高齢者サロン 等）
- 生活支援（例：買物支援 等）
- 自治会住民の交流の機会の増加
- 災害時を想定した自治会ごとの取り組み  
（避難支援・見守り支えあい制度の登録、防災福祉マップ、命のバトン 等）
- 助けあいや支えあいを大切にする意識づくり
- その他（ ）

⑤貴自治会内の日ごろからの見守り活動（サロン活動など）を開始・充実させるために  
なにが必要だと思いますか？（複数回答可）

【見守り活動】

- 財源的支援            物的支援（命のバトン）
- 相談立ち上げ支援   地域の状況説明（参考事例など）
- 避難支援・見守り支えあい制度の登録
- その他（ ）

【サロン活動など居場所づくり活動】

- 財源的支援            物的支援
- 相談立ち上げ支援   地域の状況説明（参考事例など）
- その他（ ）

⑥びわ福祉の会に求めることはどのような活動ですか？（複数回答可）

- びわ地区域のつながりづくり（ひとり暮らし高齢者のつどい、家族ふれあい事業 等）
- びわ地区域の当事者支援（介護者サロンの実施 等）
- びわ地区域の意識向上  
（広報誌の発行、各種研修会の開催、自治会を対象とした出前講座 等）
- 自治会のふれあいと交流の支援（小地域サロン推進事業 等）
- 自治会の福祉の仕組みづくり（福祉委員会等活動支援事業、転倒予防教室支援事業 等）
- 子育て支援活動
- 退職世代の方の自主活動支援
- その他（ ）

⑦日ごろの自治会活動の中で、課題や感じておられることがあれば、どのようなことでも  
結構ですので教えてください

[ ]



▶住民ヒアリングより

■ 実施回数 6回

■ 実施対象 PTA 役員、若年層（主に 20～40 代）の地域住民、サロン運営者、ボランティア活動者等

◎ びわ地区のいいところ

のどか、自然が多い、琵琶湖が近い、静か、ゆったり、雪が少ない、水が美味しい、空気が美味しい、人が優しい、気楽

◎ どんなことをして暮らしていますか（すきなこと、趣味）

畑、ガーデニング、読書、中華ドラマ、韓国ドラマ、切り花、ネットフリックス、整理整頓、断捨離、編物、手話、畑、グランドゴルフ、花の鑑賞、音楽鑑賞、ウォーキング、花づくり、クロスワード、茶道、スイミング、卓球、体操、パッチワーク、食事会、スポーツ

◎ 自分たちで地域や子どもたちのためにしていること・したいこと

- ・ 子どもが中学にあがると忙しい。部活やスポ少は特に。そこまで考える余裕がない。
- ・ 中高生の集まる場は、「忙しいからいかない」と子どもが言っていた。
- ・ 竹生島のタブノキ保全活動への参加や「よしいけどんどん」等いろいろなことをしている。
- ・ 災害研修の名目で、外で火をたいてご飯を食べたりしている。
- ・ 思い立って、急に知人を招集してびわ内を原付ツーリングした。
- ・ お父さんが楽しそうというきっかけで子どもと繋がる。
- ・ 伝統食やりたい。
- ・ イベント情報とボランティアのマッチングをしたい。
- ・ 外国の方に料理を教えて欲しい。

◎ 自分では難しいが、地域で誰かにやってほしいこと

（子ども子育て関連）

- ・ 学校での泊り再開（びわ北小では長年開催されていた）。
- ・ 乳幼児の基礎体力の維持向上への取り組み。
- ・ 鬼ごっこ大会、スポーツの森にて「逃走中」をしたい。
- ・ 子ども食堂の立ち上げ。
- ・ 学校の帰りに立ち寄れる居場所づくり、自習室、遊べる場所。
- ・ 昔の楽しかった思い出話を高齢者から親へ、親から子へつないでいく取り組み。

- 学校整備を年配の皆さんにお願いしたい。学校も地域ボランティアの力を借りたいと思っている。
- 子どもの遊び場が欲しい。びわは山がないので地区外で活動している。薪割りとかさせてあげたい。
- びわ中の工作室を土日解放して欲しい。
- まちづくりセンターの学び座は続けてほしい。
- 子ども会と老人会でコラボしたい。  
(高齢者福祉関連)
- 高齢者は体操で出会うが、違う世代との縦のつながりがない。
- 車に乗れなくなったら食料品の買い物に困る。  
(その他)
- 地域ボランティアの組織化・継続化  
→ひとあつめが個人の人脈に頼っている実情がある。折角様々な組織があるので、横のつながり、まとめ役があるといい。
- コンビニが欲しい。
- びわの写真スポット、自分しか知らない小ネタなどを発信できる場があるといい  
(インスタ?)。
- 婚活をやって欲しい。なんとかしてほしいひとがいる。
- 体験教室としての草刈りと除雪、実益と兼ねた体験。
- イベントをしてほしい。ダイエットとかヨガとか。講師がいなくてもYouTubeを見ながらでも楽しそう。
- サロンは高齢者のイメージがあるので、別の名前があるといい。
- コロナ後、外でおしゃべりする人がなくなった。ある程度の年齢別のおしゃべりサロンや、サロンのない地区の人が集える場があるといい。
- 各自治会にエアコンは必須。
- 空地が多いので、外国人に住んでもらうのはどうか。
- 何もかもが簡素化していくので、大変やったけど楽しかったよね！と言える思い出作り。

◎ 思い、考え、気持ちなど

- 本当によいことをしないと続かない。
- 何もかも簡素化していく。担い手がない。
- 中間層は今の生活が精一杯（自治会役員・子どもの行事・学校行事・趣味などで忙しいため、それ以上のボランティア活動はできない）。
- やらないといけないことが多い。むしろ、今やっていることで減らせることはないかを考えたい。似たようなことはまとめてやったほうがいい。(福祉の会、地域

づくり協議会、学校の協議会、自治会、子ども会、スポ少のイベント、寺や神社の行事・・・) オールびわで取り組む。

- 自治会活動は出ざるを得ない(所帯を持つと役が当たる)。親がいよいよ地域の役をやっているのを見て育っている。消防団、自警団は縮小傾向。
- (多くの人に地域福祉に関わってもらおう工夫について) 誰が発信力を持ち、どう広げるか。若い世代は広報を読まない。SNSは見る。Facebookの地域限定公開やライングループ?自治会でその年齢層をピックアップしてもらって声をかけてもらうとか。とにかくきっかけ作りがいる。
- 自分は、「行事によって地域を守っている」と感じているが、他の人に「しんどい」と言われることもある。地域に関わる最初のきっかけとしての強制力が昔の婦人会にはあった。今は自由がゆえにハードルが上がる。「やめよう」が勝ってしまう。男性は強制力を持って自治会の役で繋がっているのがいいのかもしれない。
- なんせ人が減っていくのが不安。草刈りがおそろしい。今は誰かがやってくれているから保たれている。その人が誰かわからないけど、その人ができなくなったらどうなるか。今の子ども世代だと絶対無理。コンパクトシティ?の考え方もあるけど、住める限り住み続けないと、住まなくなった土地は、住めなくなる。高い草刈り機を買うか?除雪にも言えることだが、本当にどうやっても無理なのか、みんなでやったらなんとかなるのか、知りたい。
- 大変だと聞かされているから若者が帰ってこないのかもしれない。大丈夫と言われたい。つながりや楽しみがあって地元が元気なら残る人が増えるのではないか。
- 上の世代はシステムチックにしなくても自然に助け合っている。若い人はそれをどう見ているんだろう。上の世代が黙ってやってきて今があるのだとすると、若い世代がそれらをつまびらかにするのがいいのかどうかというところもある。
- 若い人は外へ働きに出て、高齢者ばかり。活気がない。
- 昔はもっとたくさん行事があったなあ。
- 食事イベントはいまだに躊躇する。
- 以前は集まってひなたぼっこをしていた。それもなくなった。老人会もなくなった。

#### ◎ 福祉の会にやってほしいこと

- ふれあい用具の買い出し  
→福祉の会で購入すると長浜まで行かなくて済む。  
(綿菓子機・かき氷・ポップコーン・AED・プロジェクター・冷風機・スピーカー)
- 自治会・子ども会への助成金。(高齢だけではなく、世代間交流した行事への助成。)

→中間層は自治会での立ち位置も重要になってきます。福祉の会で何とかしていきたいと思わず、各自治会の方で頑張ってください、各自治会を盛り上げていただき、そこに助成するのはいかがでしょうか。

- 自治会発表の場を設けるのも一案。大人が発表するのが大変であれば、子ども会を通じて子どもに文章や絵を書いてもらい発表する場を提供（びわ地区文化祭）し、発表していただいた自治会には賞金（助成金）を出す。
- 子どもサロンの推進と助成。
- 高齢者サロンの助成金額を上げてほしい。



第3期びわ地区地域福祉活動計画策定委員会